

した。自国の人間が殺される時は、その非道に憤るのに、敵の兵隊が死んで行くのを見て喜ぶ心理というのは恐ろしいことです。私達日本人だって、ひとたび戦争の渦中にまきこまれたら、正常な判断力を維持出来るとは保障出来ません。太平洋戦争の時でしたが、アメリカ兵の捕虜をみて、「おかわいそうに」と言った日本婦人が、一般の非難をあびた事件もありました。

旅先で知りあった、或る日本女性から聞いた話ですが、その親しいドイツ人は、ドイツと日本とは、今度何時、また組んで戦争したらよいだろうか、などとその人に向かって言うそうです。それは冗談だと思いたいのですが、それにしても、まだまだ国と国との間に横たわる壁は厚く、根強いゆきがありと、こだわり、或いは反感といったようなものがあると思われます。

ヨーロッパを旅行中、日本で見なれぬせいか、兵隊さんが多いのが目につきました。クリスマス休暇の頃でしたので、駅には帰省、帰隊の兵隊さん達であふれていました。頬のバラ色の、母親との別れが大部つらかったのではあるまいかと思える、まだほんの少年の兵隊達をみて、この若者達が、戦場で命を散らすような事態に決してなりませんようにと祈らずには居られませんでした。流れる歌声に耳をかたむけ、旅で出あったいろんな国の人々をおもいつつ、旅の最後の夜をすごしたのでした。

(一回生)

## 高校における地理授業プラン考

### — 単元「世界の農牧業」を例として —

伊 部 久 子

#### I 単元の構成

文部省の指導要領、教科書と規制された中で、教師自身の独創性を活かして、どう授業をすすめるか —。毎年、あれこれ授業プランをたてる事は、頭の痛い事である半面、楽しみである。高校で地理を担当して、今年が5年目をむかえる。教科書中心に授業をすすめていったのが、第一年目。生徒自身の発表学習に主体をおいたのが2年目。3年目は、岩波新書「世界経済図説」の解説に終始した。昨年は高校地理教育談話会(高校の地理教師によって作られた自主的サークル)で作った地理資料を中心においた。

ところで、高校では地理学習は1年でおこなわれる。2年で、倫理社会、世界史前半、3年で、世界史後半、日本史、政治経済と……教科「社会科」は分割されて授業がすすめられる。この分担については、知識を系統的に理解させる為の配慮がなされている訳ではない。むしろ、各教科の勢力的な対置関係がもち込まれたものと聞いている。従って、地理学習では、資本主義発達の歴史の

理解なしに、現代の工業、農業、人口、国家の問題を扱う事になる。社会科全体の立場から、学習内容、順序、配列の問題について検討せねばならないし、又、小、中、高と一貫した教育を前提として、単元構成について考えたいものである。

ひとまず、次のようにおさえてみる。

- イ 小学校では — 生産活動について基本的な概念を、実態にそくしてきちんとつかませる。例えば、農業とは、どういう仕事なのか、誰が農業をやっているのかという事を理解させる。
- ロ 中学校では — 生産活動の多様さ、地域の差異や、共通性を究明する。
- ハ 高校では — これを総括して、資本主義（独占体）の支配の形態、政策、動向を明らかにする。

従って、地域区分は、まず三つにわけろ。今までの地理では、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ等々と、大陸別に取りあつかわれている。

A 独占資本が形成されている地域 — 先進資本主義国、アメリカ、西ヨーロッパ、日本。つまり、我々（生徒達）が今生きている社会。

B 先進資本主義国の独占資本が支配している（流通機構、プランテーション、鉱山経営などの形で）地域一低開発国。（いわゆる後進国）アジア、アフリカ、ラテンアメリカ。これらの国々は、第二次大戦後、民族独立運動によって植民地体制が崩壊され、独占資本に対して様々な抵抗がなされ、独占資本の支配を打ちきったり（社会主義化）、支配体制自体の変質を余儀なくさせられている。

C 資本の支配を打ちきった地域 — 社会主義国、ソビエト、東ヨーロッパ、中華人民共和国。

これらの地域について、鉱工業、農業と産業別に考察し、単元「国家群」（国家の動向）で、この三つの地域の相互関係をみていく。

## II 農牧業の学習

### イ 農業地域区分について

教科書はどれも、ホイットルセイの農業地域区分を取りあげている。その分類の基準は、生産目標や経営方式、集約度等々、混合している。例えば、西ヨーロッパと東ヨーロッパとソビエトを、ヨーロッパ混合農業地域と一つの地域にくみいれている。生産関係を無視して、作物別に分類しているかと思うと、アジアについては、アジア型農業地域と熱帯型農業地域と二分している。少なくとも、一国単位で生産活動が営まれているのが、現状ではないだろうか。各国独自に、自立経済の道をすすもうとしている低開発諸国の農業は、熱帯型農業地域と区分されて考察させるより、それら

の国、一つ一つの農業についての動向をつかむ方が、より重要な事ではないだろうか。

#### □ 農業学習の内容

どういふ作物を作り、どういふ生産関係の中で、どういふ農業問題に当面しているかを理解するため、地域別（国別）に次の点を、おさえようと思っている。

##### a 農業生産の動向

生産の伸び、国民経済の中での農業、農業人口、農業生産、農業所得と工業の比較

##### b 農業経営

作物 — 生産高、生産性。土地 — 経営規模、土地所有の形態。機械。労働 — 家族労働、賃労働、農業労働力の流出。

##### c 独占資本の農業支配

##### d 農業問題と農業政策

一時限に一つの主題をとりあげ、授業を組み立てる。学習形態は生徒の発表を基にしてすすめてみたい。

(二回生)

## “アマのくらし”

内 田 弘 子

最近の海外旅行ブームで、香港を訪れる日本人観光客は1日平均259人(1966年)とかで、秋～冬の観光シーズンは、日本人旅行者あふれるの感さえあります。夜景や、中国料理や、日本より安価な高級欧米商品のショッピングなど、旅行者は香港の幾日かを惜しみなく楽しめるようです。

さて、香港に、駐在員家族としている私が、興味深く感じている“女のくらし”があります。アマ(阿馮)といわれる一群の女性です。言ってみれば“女中”ないしは“下女”にあたる女性です。彼女達は特徴のある服装 — 1年中ダブダブの中国式ズボンと、白か黒又は黒に近い色の上衣。髪はオカッパのような断髪か腰のあたりまで長い一本の三つ編 — をしていますので外見上も区別できます。彼女達は一つの社会的階層を作っています。

香港の富豪は革命前に逃れた上海人が多く、彼等が、現在の近代工業の資本家でもあるわけですが、そのような金持ちは、2～5人のアマを使っていて、(料理アマ、洗濯アマ、ベビーアマetc)奥さんは何もしないでせいぜいマージャンという階級もまだかなりあります。家事はアマまかせですので、主婦の仕事の合理化わけても時間の節約につながる事は普及しない傾向さえあります。アマは、いわば住込みの家政婦とも云えます。彼女達の出身は、広東又はその近郊で、ほとんど、か